

# 道内初

# JGAP団体認証取得

## J Aなんぼろ管内 ピーマン・米部会 産地力PR

空知管内のJAなんぼろ管内の生産者でつくる蔬菜(そさい)園芸組合ピーマン部会と米の生産部会であるなんぼろピュアライスの両部会が8日、道内で初めてJGAP(日本型農業生産工程管理)の団体認証を取得した。今後、キヤベツやブロッコリー、ナガネギなどの部会でも順次認証取得を進める方針で、産地の優位性をPRしていく。

JGAPは食品の安全性確保や環境保全、労働安全など生産工程に関する検査項目に沿って農作業を実施、検証を行う手法。JGAPは、個別の生産者が受ける個別認証と、生産部会などが受ける団体認証がある。

同JAや生産部会は、JGAPの団体認証を農産物販売の戦略として位置付け、3年前から認証取得に向け準備を進めてきた。ピーマン部会7戸となんぼろピュアライスの3戸が、団体認証の取得を実現。第3者認証による品質確保を基に、安全、良質な農産物生産の取り組みを消費地に向けて発信していく。

JGAP団体認証を取得した生産者は「優良産地としての責任を果た

し、よりよい農産物を消費者に届ける努力を続けたい」とし、認証の取得だ。消費者を増やし生産ロツトを確保していく考え



JGAP団体認証を受けた生産者代表やJAの関係者(南幌町で)



コンプライアンスやTPPについて学ぶ参加者ら(旭川市で)

### 理事研修で TPPなど学ぶ

上川地区農協組合長会など

上川地区農協組合長会とJA道中央会旭川支所は9日、2010年度上川管内JA理事研修会を旭川市内のホテルで開いた。13JAの常勤役員や非常勤理事約160人が出席した。

同組合長会の新井光雄会長(JA上川中央組合)は「健全なJA経営推進と政府が進めるTPP(環太平洋経済連携協定)は大きな関心事。有意義な研修にしてほし

い」とあいさつ。

研修講演では、東京大学大学院の鈴木直弘教授が「TPPと日本の国益」と題して講演。鈴木教授は「少々高くても物が違う」という日本の農産物を評価する消費者を日本だけでなく、アジアや世界につくることで本場の強い農業が実現できる」と強調した。

日本マネジメント総合研究所の戸村智恵理事は「コンプライアンス(法令順守)運営と内部統制のポイント」と題して講演した。「企業不祥事・不正対策の鉄則は、正直に、正確に、正式に、

の3つが基本だ」とし「早期発見と早期是正が必須」とした。

### 新技術を紹介

28日にセミナー  
道総研北見農試

道総研北見農業試験場は28日、開発した新技術を現場に普及するため「第15回オホーツク農業新技術セミナー」をオホーツク管内JAびほろの

大ホールで開

北見農試は

への対応方法

麦「きたほな

質安定栽培法

栽培のクリー

の高度化など

明。網走農業

ンターは寒縮

ソウの11月ど

立について登

午後1時か

無料。問い合わせ

農試、(0122)2252。

## 野菜作りの楽しさ実感



# HOKKAIDO 北海道

情報提供  
購読申し込みは

日本農業新聞  
北海道支所

〒060-0004  
札幌市中央区北4西1  
共済ビル内

☎011-231-3668(代)  
ファクス  
011-231-3991  
メール  
hokkaido-h@agrnews.co.jp

JA北海道中央会  
農業振興部  
〒060-0004  
札幌市中央区北4西1  
北農ビル内  
☎011-232-6417

### 通信部

函館 ☎0137-67-2929  
岩見沢 ☎0126-23-6617  
旭川 ☎0186-24-4771  
帯広 ☎0155-24-6615  
北見 ☎01586-2-2995  
根釧 ☎090-8895-3392  
(連絡所)  
☎015-485-1117  
天北 ☎01634-2-0500

真剣に新技  
導員ら(豊)

# TPPと法令順守学ぶ

## 留萌・宗谷の J A 役員 経営や指導に反映

留萌と宗谷地区の農協組合長会と J A 道中央会旭川支所は 8、9 日、管内 2010 年度 J A 役員研修会をそれぞれ開いた。J A の健全経営推進と、政府が進める環太平洋経済連携協定 (TPP) の本質をとらえ、組合員に対する営農指導、J A 経営の運営や役割などに反映させる狙い。

8 日の宗谷管内研修会は豊富町で開かれ、同管内 5 J A の常勤・非常勤役員、職員ら 56 人が出席。



TPP 参加で今後の農業の在り方などを学ぶ J A 役員職員ら (豊富町で)

「コンプライアンス (法令順守) 運営と内部統制のポイント」と題して講演した日本マネージメント総合研究所の戸村智憲理事長は、コンプライアンスとその実効性を

み、経営管理者の立場におけるコンプライアンスと公益通報者保護制度などを解説。「不祥事や不正、事故対応の鉄則は正直に、正確に、正式に、の 3 つにある」とし、「早期発見と早期是正が必須だ」と述べた。

# 地域優位性生かせ

## 空知普及センターなど 普及活動情報共有

また、東京大学大学院の鈴木宣弘教授は、「TPP と日本の国益」と題して講演した。「TPP は国益と農業保護の対立のように描かれているがそうではない」と指摘。その上で、「少々高くて、あなたのものしか食べたくない」という消費

決の取り組み成果を発表し、空知農業の今後の展開で情報交換した。空知総合振興局農務課の中島和彦課長が、空知農業の課題と今後の展開方向で情報を提供した。農業者の年齢構成や主要



米づくりのアドバイスする竹内支所長

# キュウリ早くも収穫

## 森町温泉熱利用し青々

渡島管内森町の濁川地区で、外は白銀に包まれた水点下の世界ながら、豊かな温泉熱を利用したキュウリの全道一早い収穫が始まっている。同地区はカルデラ盆地で、温泉熱を利用した冬場野菜の生産が盛んな地帯。愛

種を始めた。温泉熱を引き込んだ 22 坪のハウス内に昨年 12 月 18 日に定植した品種「むげん」の黄色い花がハウス内いっぱい咲き、みずみずしいキュウリが成長している。秀嗣さん、妻の良江さん (37)、両親の家族 4 人総出で約 21 畝に成長したキュウリを収穫 (森町で)

種。3 等級 5 規格に選別、箱詰めにし (1 箱 5 キ詰め) 1 日約 13 畝を J A 新はこだで森支店濁川事業所に持ち込み、地元函館を中心に札幌など道内市場に「函館育ち/きゅーり」のブランドで 6



月末まで出荷を見込んでいる。

愛場さんは「1 月の寒遅れた」と言いながらも、作業に精を出している。

岩見沢市北村豊里地区では、協議会を設立して活性化を進めたと発表。空知型輪作体系の確立で安定生産や品質の向上、環境型農業などを推進。生産技術や経営技術の支援により、地域が活性化し、生産者の意識が向上したとの成果を報告した。

# 北海道

供し込みは 農業新聞 道支所

0004 中央区北4西1ル内 231-3668(代) ス 231-3991 do-h@agrinn.jp

北海道中央会 興部 0004 中央区北4西1ル内 232-6417

通信部

7-67-2929 26-23-6617 36-24-4771 55-24-6615 586-2-2995 8895-3392 5-485-1117 334-2-0500

道産ゴボウの動き (札幌市)

円/kg 400

確

【石狩】 えている活 若手農業

「REF」こせがれは、26日札幌市中「ED」年記念イ 同グルに旗揚げ たちの支 かせがれ の場を作

設立 26日